

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『備前焼の里』と言われている静かで落ち着いた環境の中、天気の良い朝は日光浴を兼ねて玄関のベンチで歌を歌ったり、体操をしたり、花壇の花の水やり、玄関掃除など一緒にしながら一日がはじまります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、備前焼の里にある事業所は平坦で静かな日当たりの良い住宅街にあり、利用者は玄関のベンチで日光浴をしたり、家庭菜園など家庭的な日常生活を穏やかに過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Includes rows 56-62 and 63-68.

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームやフロア内に理念を掲げ、二か月ごとのカンファレンスで理念を共有している。	「基本的人権の保護」「家庭的な生活」「生き甲斐のある生活」を基本理念とし、スタッフの目に触れやすく共有できるよう工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度に関してはコロナ禍の為、地域の行事やボランティア方々との交流は行えていない。絵手紙サークルの掲示のみして頂く。	今年度はコロナウイルス感染予防のため、同じ空間で行なう行事や交流は出来ないため、絵手紙などの作品を掲示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティアを受け入れ認知症の理解を深めてもらっている。今年度はコロナ禍の為、中止となる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍のため行っていない。	今年度はコロナウイルス感染予防のため、行なわれていないが、会議の項目について書面等で職員等に周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況など必要に応じて連絡を取っている。	コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議などで市町村担当者と直接会って話することは出来ないが、顔なじみの関係であるため、今まで通り必要時に連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度行い、基本的な禁止の対象は理解し、疑問などは話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会にて「防止のための虐待のとらえ方」「不適切ケアの段階で発見し、虐待の芽を摘む取り組み」などを職員全員で話し合い、実践に反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について事業所内で勉強会をとうし職員の理解を深め知識の向上をはかる。職員間でお互いのケアの仕方にも注意を払い防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んだことは職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時にはゆっくり時間をかけ、家族が質問をしやすいように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様は面会や入金の時など普段の様子などを伝えており要望などが有れば職員間で共有している。入居者様とは普段の会話の中などで要望などを話しやすい雰囲気を中心掛けている。	家族との面会時間が限られている中、可能な限り生活状況を伝えている。家族から出された要望は職員で共有し柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二か月に一度ミーティングを開き意見や提案を聞き反映させている	ミーティングやカンファレンスなどで管理者は職員が意見を言える雰囲気づくりに留意しており、解決が難しい課題や愚痴などもしっかり受け入れ、可能な限り改善につなげている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の管理者会議で状況を報告し整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保ししやすいように勤務調整などで協力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者が定期的に集まりそれぞれの活動報告をして、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の多い初期には細かな配慮を心がけ不安なく過ごせるよう寄り添い信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では特に状況を細かく報告して信頼関係づくりに努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望するサービスを見極め、そうだんしながらできる限りの対応に努める努力を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力が活かせるように過度の介護をせず家事などのできることは職員と一緒にしていただくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室でゆっくり過ごして頂き、問題点があれば一緒に本人を支えていく支援をしていく。本年度はコロナ禍で面会禁止になっているが、窓越しで面会や電話などで会話して頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会は行えていないため電話で話をしたり、職員と家族の話や昔のはなしや思い出など普段の会話の中で思い返せるよう行っている。	コロナウイルス感染予防のため、面会は行なわれていないが、家族へ年賀状を書く利用者のフォローや利用者アルバムをみてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人一人の個性を把握し利用者が孤立しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に訪問しやすい環境を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重してできるだけ本人の希望を一番に考えるようにしている	日々の言動の中で、食事メニューや散歩の希望など出来るだけ意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴の聞き取りをしっかりと入居後に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日ごろからしっかり様子観察して変化のあったときは申し送り、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアプランの見直しをして、家族の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している	毎年、介護計画の見直しを実施している。ケアマネージャーが中心に取り組み、家族や職員、医療関係者の意見を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活やケアの様子が見えるような記入をし、家族、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活歴や家族の状況に合わせて一人ひとりのニーズに合った対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントなどに参加して楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の希望を優先し適切な医療が受けられるように支援している	協力医の往診が月2回あり、緊急時・夜間時は連絡をしている。今年度はコロナウイルス感染予防に細心の注意を払い、必要時受診している。家族には受診結果を定期的に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護で日常の様子を報告し、必要があれば主治医に相談して適切な受診を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪問看護や往診時にしっかり情報を伝え早期治療に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為がない場合は家族の希望を優先し主治医と話し合い納得のいく支援に取り組んでいる	入居時には必ず家族に重度化や終末期に向けた方針について説明し、了解を得ている。実際に重度化した場合には、都度家族の思いを優先し、関係者で話し合い、協力して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	日ごろから様子観察をしっかりし初期対応の時期を逃さない実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜の想定で年二回避難訓練を行っている	9月総合訓練、12月に夜間訓練を実施。都度消防計画を見直し、消防署からもアドバイスをもらっている。水や非常食など備蓄についても確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を重視した対応を心掛けている	一人ひとりの性格や生活歴に応じた対応を心掛けている。入浴・排泄介助時はプライバシーに配慮した声掛けを行うよう気を付けている。	コロナ禍のため研修を現在行えてないが、状況に応じ、職員育成にむけて研修の参加や実施が再開されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導や入浴などの都度希望を聞き自己決定ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を大切に押し付けにならないよう一人ひとりのペースに沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでいただいたり意思表示の困難な方には同じ服に偏らない配慮をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材で季節感を出したり好みを聞いたり、食べたい物を聞き献立に取り入れる。	家庭菜園で収穫した野菜やスイカなどを利用しながら、3食職員が手作りをしている。献立は職員が順番で立てており、利用者の食べたいものを反映させている。そうめんやクリスマスケーキなど季節に応じた食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は体調を把握し摂取しやすいよう工夫をして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできないところは介助し、入眠前には義歯の消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートでパターンを把握しトイレでの排泄を基本にしている	排泄シートでパターンを把握し、それを参考に声掛けを行ない、出来るだけ利用者がトイレで排泄するよう促している。職員は利用者の「立つ・歩く」ことを意識して、朝の体操や手すりを持って足上げ運動など行い、身体機能維持の支援をしている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握して 飲み物の工夫や薬の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴でゆっくりと湯船に浸かって頂き入浴後は保湿ケアにも努めている	利用者は基本的に午後週2回・午後に浴槽に浸かっている。季節によりゆず湯や入浴剤で香りを楽しみ、湯温も個々に応じて設定しており、利用者が鼻歌が出るほど楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず就寝まで思い思いの時間を過ごして頂き、気持ちよく休んで頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の薬を把握しており疑問のある時は薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をいている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの張り合いや生きがいにつながることを見極め支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜、藤、コスモス、バラ、紫陽花、紅葉など季節を感じていただける外出をしている。今年度はコロナの為、外出は避けてホーム内で壁画や生け花などで季節を感じていただくように工夫した。	玄関先での日光浴や散歩、花の水やり等日常的に外気浴をしている。花見、紅葉などを感じられるよう、外出時に季節の行事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物に同行したり、代理で買い物をする支援もしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から友人や親戚の連絡先を聞いておき、いつでも連絡ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くようなものや障害になるものは除き季節感のあるもので工夫している	窓が大きく明るいリビングは、日当たりが良くぼかぼか陽気を感じることができる空間である。玄関の壁にはボランティアによる絵手紙を掲示し、リビングには、季節のタペストリーや作品のカレンダーなどを貼って、季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳の間など思い思いに過ごせる場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が居心地よく過ごせるよう、本人や家族と相談し使い慣れたものや好みものなど置くなど工夫している	居室は家具・椅子・家族の写真などが置かれ、シーツ交換や居室の清掃を居室担当が週1回以上行っており、利用者が居心地よく過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自由に安全に移動が出来るように障害になるものを置かないようにしている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催がコロナ禍のため、開催できていない	運営推進会議を再開できるようにする	従来の開催方法にとらわれず、コロナ禍でもできることを実施する。書面による開催方法など検討してみる	3ヶ月
2	20	馴染みの人との関係継続の支援がコロナ禍のため、面会が行えていない	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や家族との関係継続の支援を行う	コロナ禍で面会が難しいときには、手紙、電話、写真などにて関係継続の支援を行う	3ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。